

網走湖畔包む白い春

北海道新聞

ミズバショウ見ごろ 4/26

【網走、大空】網走湖畔でミズバショウが見ごろを迎え、白くきれいな姿が観光客や市民の目を楽しませている。

網走市呼人から大空町女満別までの湖畔に、国内最大級の約52畝の群生地が広がっている。市観光協会によると、今月中旬から暖かい日が続いて一気に雪解けが進み、見ごろは例年より1週間ほど早いという。

呼人では25日、花びらのように見える真っ白な「私荻菖」が湿地のあちこちから顔をのぞかせ、訪れた人が熱心にシャッターを切った。市内の60代の女性は「ほぼ毎年来ていますが、今年もきれいですね」と目を細めていた。

(渡辺拓也)



網走市呼人で見ごろを迎えているミズバショウ

ミズバショウを守る

呼人群生地を手入れ 網走タイムズ 4/22

網走湖・水と緑の会



市呼人にあるミズバ・水と緑の会(清水晶年、この時期に行つてシヨウ群生地の保全に子会長)が21日、同群を取り組んでいる網走湖生地を手入れした。毎

年、この時期に行つて咲き誇るミズバショウを眺めながら、群生地内の環境が変わらないよう、枯れ枝を集めるなどの作業に励んだ。会員や市民など、約40人が集まった。地域の環境保全に協力しようと、今年もNGKオホーツク(市呼人)の社員が参加した。集まった会員らは市のボランティアごみ袋を手に、ミズバショウ域の企業などが、ミズバショウ群生地を手入れした。今年も水と緑の会や地域の企業などが、ミズバショウ群生地を手入れした。今年も水と緑の会や地域の企業などが、ミズバショウ群生地を手入れした。

を踏まないよう足元に注意しながら群生地内のごみを拾い集めた。また、湿地に育つミズバショウにとって、群生地内の水の流れは重要。参加者は水の流れを妨げる木の枝を取り除くなどしていた。社員が作業を手伝ったNGKオホーツクは今年、21人が参加した。島輝人総務部長は「この群生地は観光客も多く訪れる場所。地域の企業として、環境保全に少しでも役立てれば」と話していた。

同群生地は今季、雪解けが早かったこともあり、例年より早めに見ごろを迎えた。数年前には、群生地の周囲で側溝に手が加えられたため、群生地内に水が流れ込まなくなることがあり、現

倒木処理経緯
1 昨年の台風で倒れた保全地のヤチハンノキ3本(後4本)の処置について、昨年の総会で話し合われましたが、「撤去(景観)」と「放置(自然保護)」という意見が出て、「放置」が過半数を占めました。しかし現地を見ていない会員も多く、その後「水芭蕉通信13号」で写真を拡大し、全会員に意見を求めたところ寄せられた意見のほとんどは「撤去すべき」でした。理由は要約すると「オホーツクの沿道景観として内外に認められ、網走のフォトスポットにもなっている。予算があれば、水芭蕉に影響を与えないようにして撤去すべき」ということです。その後会長と副会長2名で話し合いがもたれ撤去することになりました。 文責清水敦

側で水の滞留がみられるほか、湿地が保たれるところではミズバショウが増えているという。

伊藤

募集
年会費 1000円
郵便振替口座
02730-3-20099
網走湖・水と緑の会



1. 2017年11月、林床はまだ凍結していない
2. 2017年12月20日
3. 2017年12月21日 林床凍結
4. 2017年12月21日 倒木撤去(株)タカホカ

